

町小だより

令和4年
3月24日
No. 664
御免町小学校

美しい涙 美しい笑顔

校長 藤井 聡

令和3年度の終業式を終え、あとは、明日の卒業式を残すのみとなりました。

皆様には、様々なところでお世話になりました。感謝の思いしかありません。今年度最後の学校だよりをお届けします。4年間、お読みいただきありがとうございました。

この学校に着任して以来、たくさんの「涙」とたくさんの「笑顔」に出会ってきました。今、心に残っているのは、出会ってきた「涙」と「笑顔」の『質』の高さです。

「涙」や「笑顔」にまつわるドラマは、教室だけのものではありません。校長室もまたドラマの舞台になっていました。・・・ある日を境にして、学校に足が向かなくなってしまったお子さんの相談に来られた親御さんが流された「涙」には、親としてどうすることもできない切なさとともに、子どもに向けた深い愛情が感じられました。その「涙」に思わず息をのみ、「この子とこの親を救えずに、『学校』と言えるのか！」と自分を奮い立たせる自分がいました。電話でのやり取りや面談を挟みながら、親子への助言を繰り返し、この子は階段を上っていきました。数か月のちに完全登校を果たした時には、溢れんばかりの「笑顔」に出会うことができました。

校長室には、子どもたちもやってきます。その大半は「笑顔」に包まれたものですが、ときには、「涙」をこらえての訪問もあります。担任の先生には言えない悩み事を打ち明けにくる子や友人関係に関するアドバイスをもらいに来る子がそうです。ポツリポツリと話し始める子に、まなざしを注ぎ、心中を察しながら話を聞いていると、学校が単に勉強をするだけの場ではないことが感じられます。そして、感極まった子どもが流す「涙」は、混じりけのない純度の高いものです。思わず、「この子は、ここで精一杯に生きている！」と感じてしまいます。思いを受け止め、助言をしたり、直接手をくだしたりしたのちに、事が良い方向へ向かうと「涙」は一転して「笑顔」へと変わり、その子本来の姿へと戻っていきます。そんな時に感じる安堵感は、学校という場の存在価値を教えてくださいました。

人には、どのようにして生きていくのかを問われる時があります。結果や成果を残すことも大切ではありますが、その過程において、どのように生きて、そこにたどり着くのが大切なのだと思います。私がこの学校で目にしてきた、たくさんの「涙」やたくさんの「笑顔」は美しいものばかりでした。「美しい涙」「美しい笑顔」であるがゆえに、『質』が高いと述べたのです。「美しい涙」も「美しい笑顔」も豊かな人生には必要不可欠なものです。子どもたちには、「美しく生きる」とは、どういうことなのかという「問い」をもち続けて欲しいと思います。そして、自分なりの「美しい生き方」の答えが見つかったならば、迷うことなく行動に移してほしいと願っています。

この学校の校長であったことに『誇り』をもつことができました。子どもたちや保護者の皆様、地域の皆様に、私のこの感謝の思いが届くことを祈っております。ありがとうございました。